

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

部活が終わったのは、六時を少し過ぎたころだった。バス停までは走って五分。最終の一本前のバスに間に合いかどうか、ぎりぎりの時間だ。

「先に行つて。」後ろから、拓真の声がした。振り返ると、拓真はまだ体育館の入り口で、靴ひもを結び直している。一年生の中でいちばん足がおそい。これで乗り遅れたら、次は四十分後の最終バスだ。

ぼくは走った。坂を下り、信号を渡り、バス停が見えたとき、ちょうどバスが入ってくるところだった。息を切らして乗りこみ、いちばん後ろの席に座る。窓の外に、坂の上から走ってくる拓真の姿が小さく見えた。まだ遠い。

運転手がドアを閉めようとした。ぼくは、口を開きかけて、閉じた。「待ってください」の一言が、のどの奥で止まった。バスは動き出した。窓の外で、拓真が立ち止まり、ひざに手をついた。

家に着いてから、ぼくは何度も、あの一言を言えなかった理由を考えた。運転手に声をかけるのが恥ずかしかった。ほかの乗客の目になった。どれも本当だったが、どれも言い訳だと分かっていた。

次の日、拓真は何も言わなかった。いつもと同じように、ぼくの隣で着替え、同じように練習をした。それが、かえって苦しかった。責められたほうが、まだ楽だったかもしれない。

帰り道、また六時を過ぎていた。拓真は今日も、靴ひもを結び直している。ぼくは、走り出さなかった。

「最終でいいや。」

そう言うと、拓真は顔を上げて、少し笑った。「おそいよ、おれ。」

「知ってる。」

二人で歩いた坂道は、走ったときより長かった。でも、バス停に着いたとき、ぼくの息は少しも切れていなかった。

(この問題のための書き下ろし)

問一 「ぼくは、口を開きかけて、閉じた」とありますが、このとき「ぼく」が言おうとした言葉を、本文中から七字で抜き出さないさい。

問二 「どれも言い訳だと分かっていた」とありますが、このときの「ぼく」の気持ちとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア 恥ずかしさや人目のせいになっているが、本当は自分が拓真を見捨てたのだと感じている。

イ 運転手や乗客が悪いのに、自分が責められるのは不公平だと感じている。

ウ 拓真が足がおそいのだから、置いていったのは仕方がないと納得している。

工 理由が多すぎて、どれが本当なのか分からなくなっている。

☐

問三 「それが、かえって苦しかった」とありますが、「それ」が指す内容を、本文中から二十字以内で抜き出しなさい。

[illegible]

問四 「ぼくは、走り出さなかった」とありますが、このとき「ぼく」はどうすることに決めたのですか。前の日の出来事とつなげて、四十五字以内で説明しなさい。

[illegible]

問五 「ぼくの息は少しも切れていなかった」という最後の一文の説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア 走らなかったのだから疲れていないという事実だけを書き、気持ちには触れていない。

イ 走って乗った前の日と比べることで、拓真と歩いた「ぼく」の心の落ち着きを表している。

ウ　二人の足がおそいことを、遠回しに批判している。

工 最終バスに乗れなかったことへの後悔を表している。